

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉦業振興費

事業名 成長産業支援試験研究機器整備事業

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 産業技術課 技術支援係 電話番号：058-272-1111 (内3744)

E-mail：c11352@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 72,270 千円 (前年度予算額：27,368 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|--------|------------|------------|------------|------------|-----|--------|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 27,368 | 13,684 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13,684 |
| 要求額 | 72,270 | 18,810 | 0 | 0 | 0 | 0 | 34,648 | 0 | 18,812 |
| 決定額 | | | | | | | | | |

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

・国の成長戦略実行計画や岐阜県成長・雇用戦略において、成長が期待される航空・宇宙、医療・福祉機器、食料品、医薬品、次世代エネルギー等の研究開発を行っている企業に対する高度な技術的支援が必要とされている。

・これまでに成長分野へのアプローチとして、金型・IoT関連の「中小製造業のモノづくりスマート化推進プロジェクト」を実施し、企業への技術移転を進めている。また、次世代自動車・電子部品関連では「革新的モノづくり技術開発プロジェクト」を実施し、高度な評価分析により製品開発を支援、食品関連では「新価値創造によるサステナブル社会推進プロジェクト」を実施し、機能性表示食品開発を支援する研究を進めている。

・研究段階から実用化段階へ移行する際に、安全性・安定性の実証、量産化に伴う問題解決等に必要の実験設備および分析装置の導入が、県内中小企業にとっては大きな障害となっているため支援が必要である。

(2) 事業内容

・県内企業が成長産業分野に参入していくための高度な試験研究設備を試験研究機関へ設置し、依頼試験あるいは開放機器として利用可能にすることで、研究段階から実用化段階への移行を支援する。

・令和3年度は、セルロースナノファイバー等と樹脂との複合材料の成形や、炭素繊維製の編地への樹脂の一体成型に用いる「堅型射出成形機」を導入することで、次世代自動車、航空機や医療福祉機器等に用いる材料や部材の試作評価が可能となり、企業の製品開発の支援となった。

(3) 県負担・補助率の考え方
交付金事業にあてられている。

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|-------|--------|-----------|
| 備品購入費 | 72,270 | 試験研究備品の購入 |
| 合計 | 72,270 | |

決定額の考え方

| |
|--|
| |
|--|

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

・岐阜県DX推進計画の研究開発（工業系試験研究機関）支援プロジェクト、製造業プロジェクト、成長産業分野（エネルギー関連産業）プロジェクトに位置付けられる。

(2) 国・他県の状況

・「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」の策定（経済産業省）

(3) 後年度の財政負担

- ・故障時の修繕費用
- ・機器校正費用

(4) 事業主体及びその妥当性

・岐阜県（工業系試験研究機関）が企業支援を実施し、新規分野への参入への障壁を低くすることで産業振興を促す。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和5年度中に県内企業が成長産業分野に参入していくための、高度な試験研究設備を県が試験研究機関へ設置し、依頼試験あるいは開放機器として利用可能にすることで、研究段階から実用化段階への移行を支援する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 (R) | R3年度 実績 | R4年度 目標 | R5年度 目標 | 終期目標 (R3) | |
|-------------------------------|--------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-----|
| | | | | | 達成率 | |
| ①機器利用の促進 ※導入次年度からの 利用件数 | | 1261 H28-R2 整備備品 | 1120 H29-R3 整備備品 | 1150 H30-R3 整備備品 | 2270 H28-R2 整備備品 | 56% |

○指標を設定することができない場合の理由

※実績と目標は表中に記載の5年間に本事業で導入した機器の利用件数となっております。機器の選定状況により利用件数目標は変動します。

（これまでの取組内容と成果）

| | |
|-------|---|
| 令和2年度 | 金属部品、複合材料、プラスチック製品の材料表面を分析するための「グロー放電発光分光分析装置」を導入し、製品の高品質化やクレーム対応などの技術相談や開放試験室利用による企業支援が充実した。 |
| 令和3年度 | 航空・自動車分野や医療分野への利用が期待される複合材料の成形に用いる「堅型射出成形機」を導入し、新たな材料や部材の試作評価などの技術相談や企業による研究開発の支援が充実した。 |
| | 指標① 目標：2270件 実績：1261件 達成率：56% |
| | 令和7年度当初予算にて追加 |
| 令和5年度 | |
| | 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ % |

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|---|--|
| ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない | |
| (評価) 3 | 各分野の業種別懇談会における企業からの要望に沿っており、県の関与は妥当。 |
| ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない | |
| (評価) 2 | 各分野の業種別懇談会における企業からの評判は好評である。 |
| ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている | |
| (評価) 2 | 機器の導入については、企業からの要望を取り入れたうえで入札を実施しており、効率的である。 |

(今後の課題)

| |
|--|
| ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 導入機器の故障時の対応や、古くなった場合の更新 |
|--|

(次年度の方向性)

| |
|---|
| ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県内各分野の業種別懇談会から意見を吸い上げ、現在の成長産業分野で必要な機器を選定・導入し、企業支援を実施する。 |
|---|